

「キリストと共に死に、キリストと共に生きる」

2018年09月17日

ローマの信徒への手紙 6章1節～8節 では、どういうことになるのか。恵みが増すようにと、罪の中にとどまるべきだろうか。決してそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なおも罪の中に生きることができるでしょう。それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。死んだ者は、罪から解放されています。わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。

パウロは、「律法が入り込んで来たのは、罪が増し加わるためでありました。しかし、罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました」と言った。それは、罪の認識が深まれば深まるほど、それを凌駕して赦されている恵みの大きさに対する感謝の思いを表す言葉であった。ところが、罪の増したところに恵みがいや増すと聞いて、ならば、恵みをいただくために、罪の中に留まり続けようではないかと言う人々がいた。彼らに対し、パウロは、「決してそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なおも罪の中に生きることができるでしょう」と答えている。そして、「それともあなたがたは知らないのですか」と呼びかけ、「キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを」と言っている。イエス・キリストに結ばれるために受けた洗礼は、キリストの十字架の死に与ったことである。即ち、私たちは洗礼によってキリストの十字架と共に葬られ、罪に死んだのである。

イエス・キリストが御父の栄光によって、死者の中から復活させられたように、私たちもキリストの十字架と共に死に、新しい命に生きるためである。「もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。」キリストと一体になって、罪に死んだ者は、罪から解放されているので、罪の奴隷になって、罪に生きることなどあり得ない。「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。」キリストの十字架と共に、罪ある古い自分は死に、キリストの復活と共に、神の新しい命に生きている。

パウロは、この救いについてガラテヤ書 2章19節、20節 a で、「わたしは神に対して生きるために、律法に対しては律法によって死んだのです。わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」と書いている。人は誰もが、新しくなりたいと願っているが、新しくなれない。しかし、キリストの十字架の死を私の死と信じる時、キリストが私の内に生き、復活の命に与る「新生」が約束されるのである。